

# 適切な言葉で自分の考えを伝え合い 課題を解決していく 話し合い活動

小網 達也

## 1 条件設定に当たって

子どもは、様々な学習内容に対して、興味を示す。それらが、自分にとって学ぶ価値のあるもの、学ぶ喜びを与えてくれるものならば、他の友達と一緒に考え合ったり、意見を交わし合ったりしようとする。この時、子どもはお互いに思考したり、判断したり、表現したりしようとするが、それらが十分とは限らない。そこで、子どもが話す聞く活動を通して新しい課題に出会った時に、深く思考し、適切に判断し、豊かに表現することで、その課題を解決していくための条件を六つ考え（資料1）、実践を試みた。

1. 課題を見い出している
2. 解決方法がわかっている。
3. 一人では解決できないことを自覚している。
4. 相手に伝わる言葉を選んでつかっている。
5. 筋道を立てて話している。
6. 話し手が伝えたいがわかっている。

資料1 実践した六つの条件

実践した結果、4の条件（資料1）がまずは必要であり、他の五つの条件は思考力・判断力・表現力につながる話す聞く活動に必要ではないと考えた。なぜならば、課題を見い出すためには、これまでの学習で身に付けた知識や生活体験で得た知識を土台としなければいけないと考えているからだ。課題を見い出すとは、ただ分からることや知りたいことをあげるということではない。分からることや知りたいことを、これまでの学習で身に付けた知識や生活体験で得た知識を基に考え直して、それでも分からぬことが課題になると考

えているからである。つまり、課題を見い出すためには、これまでに得た知識が頭の中に整理されていることが必要であると考える。そして、それらの知識をつかって自分の考えを構成していくには、課題解決にとって適切な言葉をつかわないといけない。話し合い・聞き合い活動の中で、自分の考えを相手に伝える手段は言葉である。

このように考えると、思考力・判断力・表現力につながる話し合い・聞き合い活動には知識が整理されていることが必要であり、これを基にして適切な言葉をつかって、課題を見い出し、解決しながら、子ども同士が話したり、聞いたりしていく活動を「である・つながる・うまれるコミュニケーションである」と考え、以下の条件とした。

- ・条件A 整理された知識を基にして課題を考えていること
- ・条件B 課題解決に適切な言葉を使っていること

## 2 条件について

### ・条件A 整理された知識を基にして課題を考えていること

子どもは、これまでの学習で得た知識や生活体験で得た知識（知識）を基にして、新たな学習課題について考えたり、話し合ったりしながら新しい知識を獲得していく。しかし、知識が整理されていないと、授業の中で学習課題を作れないばかりか、友達と考え合ったり意見を交わし合ったりすることはできない。学習課題を解決していくためには、学習毎に理解しなければいけない知識があり、それらを適切に使う必要がある。しかし、ほとんどの場合子どもは、場当たり的にそれらを使っていることが多い。つまり、手に入れた知識が断片的に子どもの頭に入っているのである。したがって、断片的になっている知識が整理されていなければ、課題解決には向かっていかないであろう。解決すべき課題に出会った時、友達がもっている知識と自分の中にある整理された知識とを比較して、お互いの共通点や相違点を見つけようとしなければ、話し合い・聞き合い活動を通して深く思考したり、適切に判断したり、豊かに表現したりする力は身につかないと考える。

#### ・条件B 課題解決に適切な言葉をつかっていること

子どもは、課題を解決する際に、これまでに身に付けた知識をつかって考える。また、友達の発言内容と自分の考えを比べて、新しい考えを生み出す際にも言葉をつかって考える。しかし、子どもが使う言葉は、それらが「どのように使われるべきものなのか」「どのような意味をもつものなのか」を理解していないで使われていることがよくある。子どもの発言に対して「簡潔に言ってごらん」「一言で言うとどうなる」と問い合わせると、最初に発言した中身とずれたものになっていることが多い。

したがって、課題を解決するためには、課題解決にとって適切な言葉で考えることが求められる。そのためには、言葉の意味や使い方を知ることが必要であり、課題解決のために適切な言葉を駆使しようとしていることで、思考が深まったり、適切な判断ができたり、豊かに表現できたりする。その結果、新しい知識を獲得していくのである。

このように、課題を解決するためには、まず「適切な言葉を使うこと」、そして適切な言葉を使うためには「これまでに学んだ知識が整理されていること」が必要であると考えた。

### 3 おもな実践

条件A、Bとも国語と理科の授業を中心にして実践を積み上げてきた。国語で実践を行おうと考えたのは、国語は論理的な文章を読解しなければいけないからである。筆者や作者の論理を適切な言葉をつかって説明しなければいけない国語は、条件Bの検証につながると考えた。また、理科は知識の積み上げを基に、深く思考したり、適切に判断したり、豊かに表現したりしながら、科学的な見方を身に付ける教科だと捉えている。言葉をつかって、新しい知識を得るために、整理された知識もとに課題を解決していくことが一番の近道だと考えている。

#### ・条件A 整理された知識を基にして課題を考えていること

水をおした時のかさの変化や手ごたえにどのような違いがあるのかを考える学習において、空気と比較して考えていくことを捉えさせるために、まず子どもがどのような実験方法で空気の性質をつかんだのかを確認した。そうすることで、空気の性質との比較から課題の内容が「水のかさの変化」と「水の手ごたえ」を調べることになると考えていた。しかし、実際は子どもから6つの課題が出された（写真1）。それらの課題を見てみると、筒の中ではなく水槽の中に水を入れて空気の性質を調べようとしていたり、水の中で空気鉄砲の玉はどうのように飛んでいくのかを確かめようとしていたりして、空気の性質を調べるために実験したことが生かされていなかった。このことから、「空気をつかってどんな実験をしたのか」や「つかんだ空気の性質は何だったのか」を今回の実験と関連付ける手立てが必要だと考えた。そこで、子どもからあげられた六つの課題に共通するキーワード「水」を全員で確認した。これによって、「水の何かをはっきりさせるための実験」であることが明確になった。ここで前回までの学習で、子どもが手にした知識（実験で確かめた空気の性質）を振り返ったことで、今回の課題ではどんな実験をして、「水の何かをはっきりさせるのか」をつかむことができた。課題解決のためには、毎回の授業でつかんだ知識を、いかに整理するかが大切であり、ただ闇雲に何でも覚えればいいということではない。ただ覚えただけの知識では、新しい課題が出た時に今回のように、自分の生活体験を話したり、興味本位で実験したいことを言ったりしてしまい、実験で何を確かめようとしているのかということ

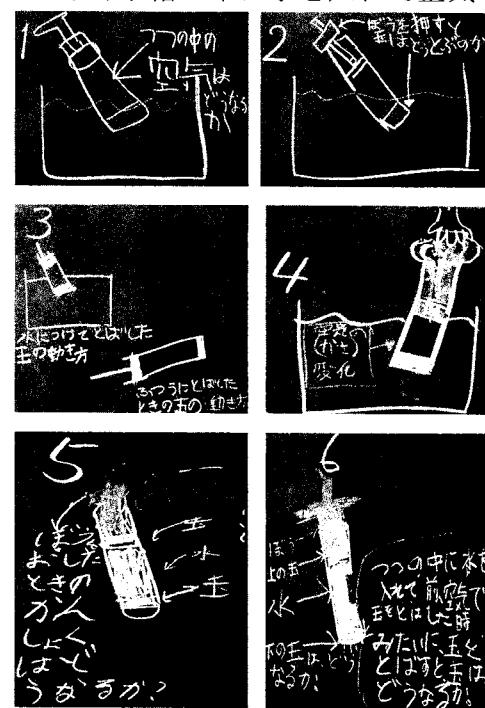


写真1 子どもからあげられた六つの課題

が分からぬ。授業の中で課題を考える際には、子どもが学習でつかんだ知識を整理することができるようになり、それらが次の課題でも生かせるような手立てをしなければいけないと考えている。

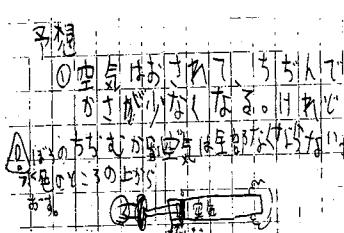
国語科、説明文「かむことの力」の学習において、問い合わせの段落をつかんだ後に、他の段落に何が書かれているかを考えた。説明文は、問い合わせを明らかにしていく文章であると、子どもは理解している。その問い合わせがどこに書かれているのか、いくつ書かれているのかを簡潔に答えられなかつた。本文に使われている言葉をそれとなく使って満足しているように感じた。ここで、第5段落に着目させることで、子どもの中にある知識を整理しようと考えた。第5段落には「かむといいことはほかにもあります」という一文の「ほかにも」に目をつけた。したがって、子どもは「かむといいことは二つ以上あること」をつかんだ。すると、子どもは「段落」ごとに読んでいこうとし、「接続詞」にも注目するようになった。「段落」という視点と「接続詞」という視点をつかって、教科文をも一度読み直し、課題解決へ向けて学習を進めていったのである。つまり、子どもは段落ごとに書かれている「いいこと」を、「接続詞」を手がかりに読んでいったと考えられる。問い合わせには、「段落」と「接続詞」を手がかりにするという知識を基に、子どもは課題を解決していった。

#### ・条件B 課題解決に適切な言葉をつかっていること

空気と水の学習で、空気を筒にとじこめて、かさの変化や手ごたえを調べる実験を行ったところ、「かさの変化」の予想のほとんどが「筒の中の棒をどんどんおすことができるから、空気のかさは小さくなる」だった。しかし、中には「かさが減る」「かさが少なくなる」と考える子どももいた。条件Aでも述べたが、課題を解決するためには、これまでにつかんだ知識が整理されなければいけないと考えている。これは理科だけではなく、別の教科でつかんだことも含められる。したがって、今回の実験では「筒の中に閉じ込めた空気」という条件がある以上、かさは「減ったり」「少なくなり」しないことを子どもが理解していることが必要だと考え、「空気は筒の中に閉じ込められているため、絶対に外にもれたりはしない」ことを一斉に確認した。

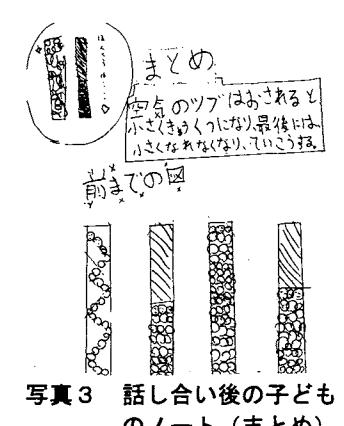
しかし、実際にこの授業の振り返りを見ると、子どものノートに「ジャガイモの実験をしてから、(空気のかさが) 小さくなるのはどういう意味かという話になって、と中で意味が分からなくなつた」とあった。言葉だけでは、子どもは目の前の現象をうまくイメージすることができないことがわかつた。そこで、子どもがイメージできるような「適切な言葉」を使う必要があるのではないか

写真2 話し合い前の子どものノート(予想)



① 空気はおされて、ちぢんで  
かさがりなくなる。(これか  
ら) かさむが空気はおされて  
小さくなる。(上の) まく

写真3 話し合い後の子どものノート(まとめ)



まとめ  
空気のツブはおされると  
小さきゆうくつになり、最後には  
小さくなれなくなり、ていこうする

前までの図

前までの図

実際に、子どものノートにも変化が現れた。予想の段階では、「空気がおされて、ちぢんでかさが少なくなる」と書いていた子どもが、まとめでは「空気のツブはおされると、小さきゆうくつになり、最後には小さくなれなくなり、ていこうする」と書いている。「空気のかさが少なくなる」と考えていた子どもが、絵や図も入れた「適切な言葉」をつかって話し合い・聞き合いをする中で、「空気のツブが小さきゆうくつになり」と考えるようになつた。(写真2, 3) 先ほどあげた子どものノートの振り返りの続きに「…友達の紙の説明で分かつた」とあった。子どもが思考したもの「適切な言葉」で伝えることは、課題を解決するためには大変有効であると考えた。

また、空気と水の性質について学んだことのまとめとして、エアーポットや気ほうシート、空気入れがどのような仕組みで使われているのかを考えた。子どもからは「道具によっては、空気の性質だけを使って書くものもありますよね」や「書いたら、近所の人と交流します」と言う発言が聞かれた。この発言を聞き、子どもは課題解決に必要な「適切な言葉」をつかって話し合いをするであろうと考えた。実際に子どものノートには絵や図が入った「適切な言葉」をつかって書かれてあるノートがほとんどであった（写真4）。子どもの意識の中に、課題を解決するためには、相手に伝わらなければいけないと感じ始めたのだろう。この結果から、相手に伝えるためには、課題に応じて必要な「適切な言葉」の使い方があると考えられる。

国語科の説明文「かむことの力」で筆者は「力」を「よくかむことで起こるいいこと」として主張を展開している。そこが読めなければ、この筆者の主張を読めたことにならない。しかし、子どもの中には、この「力」を「パワー」だと考えているものもいた。そこで課題を「筆者の言う『力』とは何だろう」とした。子どもの考えは半分に分かれていたため、筆者の主張の展開を指し示すものとして、問い合わせの段落を振り返った。筆者が、この文章を通して何について述べたいかが分かることで、筆者は「力」をどう捉えているか子どもにはつきり理解されると思ったからである。子どもは再び話し合う中で、問い合わせの段落には何が書いてあるかを確かめていた。全文概観で段落のほとんどが「かむといいこと」が書かれていることをおさえているため、子どもは改めて、筆者は「かむといいことがある」ことを伝えるために文章を書いているとつかみ直した。つまり筆者は「いいこと」を「力」と捉え、この文章を書いているのだと子どもはつかんでいた。この段階では、もう「力」を「パワー」だと言う子どもはいなかった。

今回の場合、課題解決に必要な「適切な言葉」にあげられるものが、第1段落に述べてある「よくかむと、どんないいことがあるのでしょうか」という記述だと考える。この言葉を手がかりに、さらにこの言葉が問い合わせとして書かれていることも読み取ることができれば、題名にある「力」を「いいこと」と捉えることができる。教師の手立てによって、読解に必要な「適切な言葉」を子どもがいかにつかむことができるかを考えていかなければいけない。

#### 4 今後に向けて

以上、実践を行ってきたが、条件Aについて知識が整理されているかどうかを判断することが大変難しいように感じる。発言を分析したり、ノートを分析したり、友達との話し合いの様子から判断したりといろいろな子どもの姿から判断しないといけないと考える。また、知識が整理された時の教師の手立てにも様々な方法があるのではないかと考えている。それらについても研究していくみたい。また、条件Bについては現在、適切な言葉として考えられるものは、例えば「空気と水」の単元ならば「空気のかさは大きくなる／小さくなる」「空気の手ごたえは大きくなる／小さくなる」だが、思考力・判断力・表現力が育つきかけになるのであれば、比喩や擬態語・擬声語なども適切な言葉となり得るのではないかと考えている。さらに、絵や図が入った「適切な言葉」の有効性もさらに研究ていきたい。

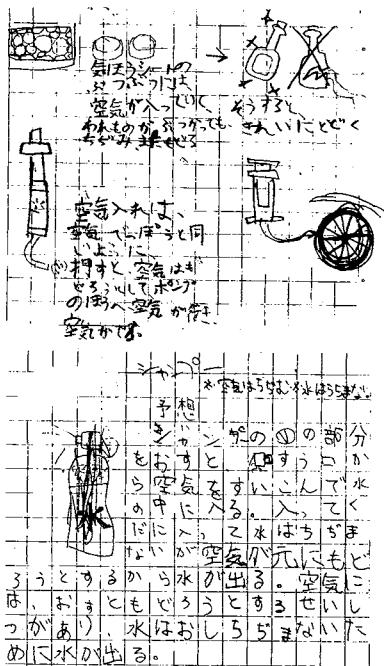


写真4 「適切な言葉」を使った子どものノート